

舞い上がる「草花の子」



ぽっぴんちゃん

あきる野の蝶々

初夏から急激に増える生き物が多い中、身近で美しい「蝶」は様々な環境で触れ合うことができます。

あきる野で調べた結果、これまでに67種類の蝶を確認しましたが、まだまだあきる野のどこかで潜んでいる種類がいるような気がします。

今回は、本新聞初の蝶特集ということで、代表的な種類やお気に入りの種類を紹介したいと思います。



ルリシジミの群れ



アサギマダラ

長距離を渡る「名蝶」で、関東南部は越冬可能な地域となっています。渡りの時季に特に見られます。



ヒオドシチョウ

春先に、ルリタテハと同様によく活動するタテハチョウです。年によって数変動します。



オオムラサキ

里山環境の代表種で、環境悪化などが原因で減少した種類の一つといわれています。実に美しい。



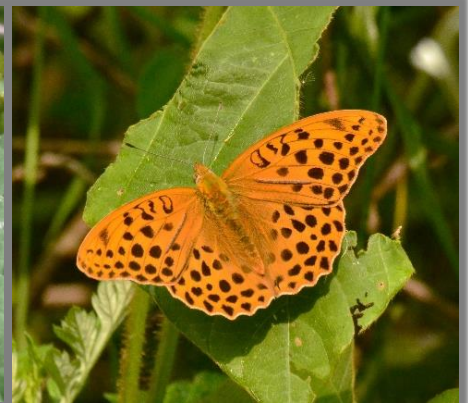
カラスアゲハ

光沢感のある大型アゲハです。森林性が高く、沢沿いなどの湿った環境で水分補給している姿は印象的です。



ツバメシジミ

野山、河原などで見かけるシジミチョウです。小さいため、注目されないが、模様は細かく魅力的です。



クモガタヒヨウモン

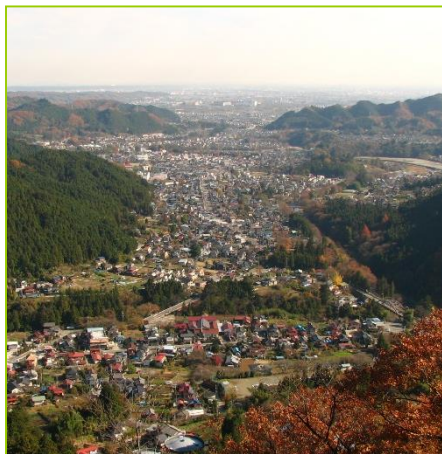
山の開放的な環境で広がる草原の代表的な種類で、初夏の晴れた日には最も見かける蝶の一つです。

あきる野の環境の変化と蝶たち



「伐採地」の良さ

森林を切ることで、特にスギやヒノキの植林地は暗く単純な環境から、多様性の高い明るい環境に生まれ変わります。伐採された場所で草本がすぐに広がり、開けた草原を好む昆虫などの宝庫になる場合があります。近年は、森林再生事業などにより、このような環境が増加したため、アゲハチョウやタテハチョウ、ヒョウモンチョウ、シジミチョウなどが多く飛び回る姿を楽しめます。(写真:市内西部の山地)



変っていく平地

土地利用の変化で農地や空き地などの「町の緑」がなくなりつつあり、蝶が減少しています。減少については、農地などで使われる農薬の影響もあると考えられています。(写真:戸倉城山山頂よりあきる野の様子)



昨日と今日の河原

河川敷には草原が広がるため、蝶にとって絶好の生息場所になります。一方、外来植物の蔓延や豪雨による川の氾濫などの影響で、この環境の蝶の多様性や密度の変化が考えられます。(写真:秋川下流部)

サカハチチョウ(春型)



メスグロヒョウモン



アオスジアゲハ



スジグロシロチョウ



キタテハ



ムラサキシジミ



キマダラセセリ



ヒメウラナミジャノメ



外来種も含めて・・・「アカボシゴマダラ」

外来種ですが、オオムラサキと同じく、エノキを食草とすることで有名です。幼虫もオオムラサキに似ているため区別は難しく、拡散しないように注意が必要ですが、既に分布拡大中で、駆除は困難とされています。